令和３年度
東金市立保育所・認定こども園
自己評価
（所・園内研修まとめ）

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」

もくじ

保育理念・方針・めざす子ども像　・・・・・・・・・・・・・・・　１

令和３年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　・・・　２

所内研修まとめ（第１保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・・　７

「心の育ちを見つめる保育」～異年齢児との関わりの中で～

所内研修まとめ（第２保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・　１３

「子どもの育ちを保障する」～ドキュメンテーションから探る子ども理解～

所内研修まとめ（第３保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・　１９

「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」

所内研修まとめ（第４保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・　２５

「子ども達がやりたいことを実現するための保育者の役割とは…」

園内研修まとめ（福岡こども園）　・・・・・・・・・・・・・・　３１

「気付き・考え・表現できる子　～様々な感情体験を通して～」

各所・園の資料は、概ね次のような構成となっています。

○表紙

○所・園のサブテーマ（子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等）

○所・園内研修の経過

○外部講師による保育の質の向上のための巡回指導を受けての課題

○所・園内研修の成果と課題

○自己評価に関する観点からの評価

【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

【2】計画に基づく評価

【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

○所・園内研修の総まとめ

○所・園内研修の事例集　※事例集は別冊とし、非公表としています。

保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

方　　針

○「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
○子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
○同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
○子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
○子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
○地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
○一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
○学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

めざす子ども像

＊仲良く元気に遊べる子・・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
＊思いやりのあるやさしい子・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
＊自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。
＊あきらめないで挑戦する子・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

～「東金市立幼稚園・保育所・認定こども園共通カリキュラム」より～

東金市立第1保育所　　令和３年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：所長　小川　まゆみ）　　令和３年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第1保育所の教育・保育目標	「心の育ちを見つめる保育」～異年齢児との関わりの中で～

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
・一人一人の気持ちにより添うことの大切さをしっかりと認識し、「自分を認めてくれている」という安心感を得て、自己発揮できるよう関わっていく。	・年齢ごとの発達の理解を深め、個々への関わりを十分に心掛けながら、心身ともに年齢に応じた発達ができるよう関わっていく。	・遊びの中での異年齢交流に留まらず、生活の様々な場面での関わりを深めながら“見て学ぶ”経験を積み上げていける環境設定を積極的にしていく。	・職員の共通理解の下、健康で安全に過ごせる環境を整えていく。 ・様々な経験を積みながら健康で丈夫な身体作りをしていくことを心掛けるとともに、年齢に合わせた安全に対する意識も高めていく。	・栽培や収穫の経験・自分で調理する経験を通して「食」に対する意識を高めていく。また、食物と身体作りの結びつきについて、年齢なりの理解を持てるようにする。	・それぞれの個性を大切にしながら、よりよい発達をしていけるよう、家庭や専門機関との連携を図るとともに、保育所全体で共通理解をもって関わっていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定	○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。		○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。				
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。				
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。				

家庭との連携

・連絡帳や保育所だより、ポートフォリオ等の媒体を通して、保育所での子どもの様子を伝えたり、送迎時の対話を積極的にもったりしながら、ともに子どもの成長の喜びを共有し合っていく。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

・小学校との連携を図り、可能な範囲での交流会に参加したり、子どもの様子を伝え合ったりしていく。また、保育所生活に対する理解を深めてもらえるような発信を心掛ける。

地域との連携を大切にする教育・保育

・実施可能な状況になった際には、世代間交流会を企画・開催し、地域のお年寄りとの関わりをもつ。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

・育児に対する悩みや不安を少しでも解決できるよう、情報提供をしていく。また、園庭開放の実施が可能になった際には、地域の子育て家庭の親子の受入れを積極的に行っていく。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「心の育ちを見つめる保育」を基本とした保育を進める中で、異年齢児との関わりに視点を当て、保育者の関わり方や子どもの変化を確認しあう所内研修を進めていく。

園の自己評価

評価方法	所内での話し合い

年齢別のクラス編制の中で、異年齢の関わりがどのように子どもの育ちに影響を与えてきたのか、という視点で保育を振り返り、実践を繰り返してきた。互いに刺激しあえる効果を認めながらも、意図的な交流がもてなかったという反省が生まれ、次年度の保育における課題となった。また、日常の子どもの姿を保護者に伝えるため、ドキュメンテーションだけでなく写真の掲示を工夫し取り組んだことで理解が深まった。

東金市立第２保育所　　令和３年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：所長　大泉　由美子）　　令和３年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第２保育所の教育・保育目標	「気付き、学び、行動できる子」

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
一人一人の発信するサインを見逃さず、子どもの気持ちを理解し言葉や動きを温かく受け止めていく。	育ちの過程を踏まえた上で、一人一人の発達に応じて配慮しつつ、見通しをもって保育していく。また、幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿も念頭に置き保育する中で、小学校へのアプローチがスムーズに行えるようにする。	異年齢児とのかかわりの中から、思いやりの心や尊敬の心を身に付けられる様、意図的なかかわりをもち、次第に自然に関わっていける環境を整える。	心も体も共に健康である様、様々な経験が出来る環境を整える。また、職員の共通理解の基、遊具の点検・遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切にし、安全に配慮する。また、散歩など園外に出る時には、交通ルールを知らせ、安全に歩けるようにすると共にお散歩カードを利用し安全管理も行っていく。	健康な生活の基本として「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、栽培や収穫を通し食への関心を高め、たくさん遊んで空腹を感じ、バランスよく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	どのような個性をもつ子も皆同じ仲間という認識の下、加配のあるクラスでも担当制とせず、保育所全体で育てていくという職員の共通理解を図る。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定	○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。					
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	**健康** ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	**人間関係** ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 **環境** ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 **言葉** ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○保育者や友達と一緒に模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○保育者や気の合う友達との関わりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	**表現** ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	

家庭との連携

０・１・２歳児では、毎日の連絡帳でのやりとりや、登降所時に保護者と情報を共有する等、密に連絡を取り合い保護者との信頼関係構築、子どもの理解へと繋げる。
３・４・５歳児では、その日の出来事を掲示したり、登降所時に様子を伝えたりする。また、保育所での子どもの様子を可視化し、育ちや学びの情報を発信する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

保幼小での研修に参加し、小学校の先生とも話し合える場を設け、アプローチからスタートへの移行がスムーズに行える様、現在の共通カリキュラムを基にアプローチカリキュラムを作成する。

地域との連携を大切にする教育・保育

世代間交流を通し、触れ合える場を設け地域との関わりを大切にしていく。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

保護者へは、各クラスのドキュメンテーションを掲示したり通信を発行したりし、情報発信をしていく。また、地域の子育て家庭への支援としては、園庭開放を行う中で未就園児とその保護者が集える場を提供する。

研修・研究計画

研究テーマ	「生きる力を育む」

・市内共通テーマ「生きる力を育む」。第２保育所サブテーマ”子どもの育ちを保障する”～ドキュメンテーションから探る子ども理解～と題し所内研究を行い、年度末に研究成果をまとめ市内５か所で発表を行う。
・山武支会、県保育協議会研修に参加

園の自己評価

評価方法	ホームページでの公表

研究まとめの中に、成果と課題・反省等を載せることで保育所の自己評価とし、公表する。また、保護者からドキュメンテーションへの意見を頂戴し、保護者への公表も取り入れる。

東金市立3保育所　　令和3年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成:所長　今井　尚美）

令和3年4月1日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第３保育所の教育・保育目標	豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの人権を十分に配慮し、一人一人の子どもが主体的活動ができるよう、子どもの気持ちに寄り添った保育を行っていく。	一人一人の発達状態に合った保育を定期的、継続的に把握しながら、年齢に応じた環境を整え、職員が共通理解を図り、保育を行っていく。	幼児組は、縦割り保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組も関わる機会を多くもち、思いやる気持ちを大切にしていく。	全職員が相互に連携し、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検、訓練を全体で行っていく。衛生面には、十分配慮し、新型コロナウイルス感染拡大防止に保育所全体で対応していく。	クッキングや菜園作りを通して、美味しく食することで、食への興味や関心を高め感謝して食べるよう働きかけ、また、保育者や友達と一緒に食べることを楽しむ。	家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を理解し、職員全体で共通理解の下、保育を進めていく。みんなと一緒に共に学び、共に育つことができるようにしていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定						
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	**健康** ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
	身近な人と気持ちが通じ合う	○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	**人間関係** ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 **環境** ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 **言葉** ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	**言葉** ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 **表現** ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。

家庭との連携

保育所だより、連絡帳、クラスや各年齢でのポートフォリオ等で、保育所の様子を知らせたり、送迎時に家庭との連絡を密に図ったりしていく。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

ネットワーク会議や幼保小研修会などの機会の際、小学校教師と意見交換や情報を共有し、保育所と小学校教育にとの円滑な接続に努める。

地域との連携を大切にする教育・保育

新型コロナウイルス感染拡大防止に十分努め、散歩に出かけ、地域の方に挨拶をする中で、交流がもてるようにしていく。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

子どもの育ちを共感し、子育ての喜びを感じられるように子育て支援に努める。また、地域の子育て支援として、週1回の園庭開放等を通し、地域性や専門性を活かして子育てママとの関わりを増やしていく。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」をサブテーマとし、それを基にポートフォリオドキュメントやエピソード記述を持ち寄り年４回の所内研修会を行う。

園の自己評価

評価方法	保育所職員間の話し合い

所内研修で保育所全体の保育への振返り、反省、改善すべきところを職員間で話し合いをし、次年度に活かしていく。5歳児の協同性や言葉による伝え合いの育ちが幼いという課題がみえたので、次年度につなげる。コロナ禍のため、安全面に考慮しながら、保育が展開できるような環境作りに努め、また、保護者にもアンケート調査を行い、保護者の声も大切しながら、職員間で話し合いをし、共通理解を図った。

東金市立第4保育所　　令和３年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：所長　今井　照子）　　令和３年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
○○園の教育・保育目標	

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
個々の家庭環境の違いを踏まえ、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、こどもが意欲を持って生活や活動ができるよう、計画を立てて実践していく。	一人一人の発達に合った活動や生活ができるよう計画を立てて働きかけを行い、こどもが自信を持って行動できるよう配慮する。	遊びの中で異年齢児とのかかわりをもち、思いやりの心やいたわりの心を持てるよう、環境を整える。	コロナウイルス感染症感染拡大防止から手洗い消毒を心掛ける。心も体も共に健康である様、いろいろな経験が出来る環境を整える。また職員の共通理解の基、遊具の点検・遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切にし安全に配慮する。また散歩など園外に出る時には交通ルールを知らせ安全に歩けるようにする。	0歳児から5歳児まで各年齢で食への興味・関心を高め、幼児組では栽培・収穫・調理などを通して、食べることの楽しさを体験する。	すべての子供にとって充実していて楽しく・すべての子供にとって優しい教育・保育を行う。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定			○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。				
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。				
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。				

家庭との連携

０１２歳児では、連絡帳でのやりとりや登降所時に保護者と情報を共有する等密に連絡をとりあい保護者との信頼関係を気づいていく。クラスごとに保育所での子どもの様子を可視化（ポートフォリオ）し育ちや学びの様子を発信する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

小学校との連携を図り、卒園までに育って欲しい10の姿を共有し、円滑に小学校生活が送れるようにする。

地域との連携を大切にする教育・保育

地域の社会福祉協議会の方と連携し、世代間交流を行いお年寄りとの触れ合いの場を設けたり、公民館に出向いて遊戯を披露する「すこやか親睦会」に参加したりする。保育所つうしんを公民館に掲示する。食生活改善会と協力して手洗い教室を開催したり献立レシピを配布する。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

毎週木曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供。遊びの発信をする。

研究テーマ	生きる力を育む

研修委員を中心に「子ども達がやりたいことを実現できる保育環境を探る」を第4保育所のテーマと決めて所内研修を行い、職員の共通理解と資質向上を図る。

園の自己評価

評価方法	石井先生巡回指導・所内研修

コロナ禍2年目で園庭開放や地域との交流等制限される中、感染対策を徹底して、子ども一人一人のやりたいことを実現できるよう環境を整えてできる活動を行ってきた。外部講師のアドバイスや所内研修を通して共通理解を図り保育所の目指す方向が見えてきて、一体感が生まれてきた。

東金市立福岡こども園　　令和３年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：園長　岡本　多美子）　　令和３年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
園の教育・保育目標	「気付き・考え・表現できる子」

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●1号認定：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●2・3号認定：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
一人一人の思いに寄り添い、友達・保育者・地域の人々など、様々な人との関わりの中で、豊かな心、逞しく生きる力を育んでいく。	年齢に即した環境作りを心掛けながら、発達の見通しを持って子どもに関わり、一人一人の発達を保障していく。	日々の保育の中で様々な年齢の子ども達が自然に交流できる場を作り、他年齢の存在を意識し、刺激を受けながらお互いに成長していくことを大切にする。	○職員同士の連携を密にとりながら共通理解を深めるとともに、様々な事に自分で気づき行動できる子どもを育てていく。 ○健康な生活に必要な習慣や態度を育てる。	食べることの楽しさ、大切さを実感できる豊かな食の体験を積み重ね、「食べたい」という意欲を育てていく。	家庭や専門機関との連携を図りながら、保育者の工夫、配慮によって、園児が共に認め合える関係を作り、安心して周囲の環境と関わりながら発達していけるようにする。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定	○嘔語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。			○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	**健康** ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。			
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	**人間関係** ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 **環境** ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 **言葉** ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	**表現** ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

保護者との日々の会話や連絡帳、園での様子を伝える掲示板を通して、家庭とこども園、それぞれの子どもの生活の様子を伝え合い子ども達の望ましい発達を共有する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

園児と児童、職員間の交流を通じて、小学校生活に安心感と期待感が感じられるような学びの接続を図る。

地域との連携を大切にする教育・保育

行事への参加や招待を通して地域の人々とふれあい、たくさんの温かい見守りの中で育つことを大切にする。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

子育てに関する情報交換の場や交流の機会を設けるとともに、相談・支援を行うことで、子どもと保護者の育ちを支援する。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「気付き・考え・表現できる子～様々な感情体験を通して～」を園内の研究テーマとし、様々な感情や思いの伝え方に視点をおき環境構成や保育者の援助の在り方を探る。

園の自己評価

評価方法	園内で話し合い

認定こども園に転換して２年目となり、運営も軌道に乗ってきた。年２回の外部講師による巡回指導や、園内研究を通して、子どもの内面を理解することや、個性を受け入れることの大切さを共通理解し、子どもが自分で考え、感じ、思いを伸び伸び表現できる場となるよう環境を整えた。

令和３年度

所内研修まとめ

市内保育所　共通テーマ

「生きる力を育む」

第１保育所　サブテーマ

「心の育ちを見つめる保育」
～異年齢児との関わりの中で～

東金市立第１保育所

令和３年度　所内研修計画

第１保育所

市内保育施設共通テーマ　　『生きる力を育む』

サブテーマ　「心の育ちを見つめる保育」～異年齢児との関わりの中で～

☆昨年度のサブテーマから・・

・一人一人の子どもの気持ちをしっかりと受け止め、その子に合った対応をすることの大切さを再認識。
・子どもの気持ちに寄り添うことで、安心感が育まれ様々なことに自信を持って取り組めるようになる姿が見られた。

⇨ 保育の原点を再確認することができた！

⇩

継続していきたいテーマであると共通理解した。

☆研修を進めていく中での子どもの姿から感じた課題点

・戸外では、異年齢児と関わる姿が見られるが、生活や室内での活動の場での関わりがあまり見られなかった。
・生活の場で“異年齢児と関わる”という意識が薄いように感じた。

⇩

☆保育士の願い

・生活の場や室内活動でも、気軽に異年齢児との関わりをもちながら共に生活を楽しめるようになって欲しい。
・人に対する優しい気持ち・あこがれる気持ち・真似をしてみようとする気持ち等が育つよう、異年齢の関わりの中で“見て学ぶ”経験を積んでいって欲しい。

☆課題を克服するための手立てとして・・・

・生活リズムの違う乳児と幼児が、生活や遊びの場で関わりがもてるよう保育者間のコミュニケーションを密にし、異年齢で関わる機会を積極的にもつ。
・自然に関われる基盤を作るために、保育者間で日々の子どもの様子を日常的に話し、きっかけ作りをしていく。

☆仮説

・意図的に関わる機会を作ることで、特に年長児は年下の友達への意識が強くなっていくのではないか。
・自然な関わりがもてる雰囲気や環境作りを行っていくことで、無理のない行き来ができるようになり、そこから生活の基盤ができあがってくるのではないか。
・自分がしてもらったことを、次の代に繋げていくには異年齢での交流が大きく影響しているのではないか。

☆研究方法

・定期的に話し合いの場をもち、子どもの成長や課題点を見つけ、次に生かしていく。
・きっかけ作りから変化した子どもの姿を記録に残していく。
・巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、見直しをしていく。

○所内研修の経過

《年６回の所内研修を実施》

回	実施日	内容
1	４月 23 日㈮	〈テーマ決め〉 昨年度の課題を踏まえ、各クラスの子どもの姿を出し合い、今年度のサブテーマを決定する。
2	５月 19 日㈬ ５月 26 日㈬	〈各クラスの課題検討〉 各クラスで“こうなってほしい”子どもの姿の課題をあげる。 →各自の意見を伝え合い、共通理解しながらその後の保育を進めている。 ポストイットを活用し、コミュニケーションをとりながら意見を交換していけるように進めていく。
3	８月 27 日㈮ ８月 30 日㈪	〈実践報告・次の課題検討〉 保育実践の後の子どもの姿を伝え合い、新たな課題をあげる。 →各自の意見を伝え合い、共通理解しながらその後の保育を進めている。
4	10 月 20 日㈬ 10 月 25 日㈪	〈実践報告・次の課題検討〉 保育実践の後の子どもの姿を伝え合い、新たな課題をあげる。 →各自の意見を伝え合い、共通理解しながらその後の保育を進めている。
5	12 月 16 日㈭ 12 月 20 日㈪	〈実践報告・次の課題検討〉 保育実践の後の子どもの姿を伝え合い、新たな課題をあげる。 →各自の意見を伝え合い、共通理解しながらその後の保育を進めている。
6	2月2日㈬	〈振り返り〉 子どもの成長や研修を行ってきた感想などを伝え合い、共通理解しながら１年間の保育の振り返りを行っていった。

第１回目（７月）

０・１歳児

・幼児組に積極的に遊びに行っているのが良い。

・手作り玩具のキャップ回しは、指先を使って遊ぶことができいいアイディアである。

２歳児

・様々な言葉を獲得していく時期なので、正しい物の名前や言葉掛けを丁寧にすると良い。

３歳児

・テントを作る際、屋根や壁に使う造形の素材を増やしてはどうか。

・継続して遊びを展開することで、明日の期待に繋がるのではないか。

４歳児

・デザート屋さんをお寿司屋さんと一緒にし、フードコートのようにしてもいいのでは。

・箸の練習に用意してある素材を難しくしてみてはどうか。

・ライトテーブルを使って写し絵をしてはどうか。

・給食時、こぼした始末は自分で出来るようにすると良い。

・絵本は待ち時間に読むものではないため工夫が必要。

５歳児

・船遊びは、素材をもっと考えると良い。

・泡遊びは窓に描くのは良かったが、ただ窓に塗るだけになってしまったのでモデルが必要。

・クラスの当番表は自分でネームプレートを貼るなど、今後工夫していくと良い。

助言を受けての変化・今後の課題

（〇）　　（☆）

第２回目（１２月）

０・１歳児

〇指先の発達をねらいとして手作り玩具を作り、遊びを取り入れた結果が生活面で指先を使うことに繋がっていった。(蛇口を回す、おしぼりの袋を開ける、靴の着脱など)

・年長児がテラスに氷を持って見せに来てくれた機会を逃さず関わりをもった方が良かった。

☆異年齢児との関わりを無理のない範囲で意図的に行ってきたが、子どもの気持ちを汲み取りながら、もっと関わりを深められる場面があったのではないか。

２歳児

・ホールでの巧技台遊びでは、一通り遊んで飽きてしまっている子もいたため、もう少し早めに切り上げて外に出られると良かった。

・外での異年齢児の関わりができていた。

３歳児

〇お家作りが本格的に進んでおり、良い形になっている。立体的に組み立てる経験は良かった。

☆これからペンキ塗りは、ローラーで塗るとダイナミックに塗れ、楽しいのではないか。

☆一年で完成ではなく、造り続ける建造物として造り続けても楽しいのではないか。

・お家でのピザ屋さんごっこでは２時間以上続けており、夢中になっていた。

☆生活面では給食前の待ち時間をお手伝い遊びにすると良いのではないか。

４歳児

☆鬼ごっこをしようとしていた行動を受け止め、保育者も一緒に行うと盛り上がったのではないか。

〇手作りのライトテーブルを用意し写し絵をもっと楽しめるようにしていった。

・異年齢児と一緒にルールのある遊びを楽しめていて良かった。

５歳児

・氷遊びをする目的をしっかりもって遊べていた。

・氷を材料にしてずっと遊べており、いろいろな遊びへと変化していて良かった。

☆氷を渡したくない子への保育者の声掛けの仕方を工夫すると良かった。

○園内研修の成果と課題

	成果	課題
乳児	○年上の友達と関わることで、クラス内だけではできない様々な経験をすることができた。 ○見て学び、真似をしたり、試したりすることで遊びに対する意欲が高まった。 ○様々なことに興味や関心の幅が広がり、何でも挑戦する姿がより一層見られるようになった。 ○年上の友達に対して親しみを持って、一緒に過ごせるようになった。 ○年上の子にしてもらい、嬉しかったことを自分よりも年下の子に優しく接することができるようになった。	○戸外では異年齢児との交流が持ちやすいものの室内だと交流がもちづらいと感じるところがあった。 ○一緒に遊んでいても、発達差があるため、すぐ遊びに飽きてしまう姿が見られた。 ○意図的に異年齢児との関わりを持ち、更に刺激を受けて遊べるような環境を考える。
幼児	○担任同士での話し合う機会を多く持つことで共通理解をしながら保育を進めていくことができた。 ○クラスの課題をはっきりと持ち、様々な意見を参考に保育をしていったことによって、その時々の子どもたちに必要な環境設定や援助をすることができた。 ○乳児の友達を気にかけて声を掛けたり、遊びに誘おうとしたりする姿が見られるようになった。 ○様々な遊びが、異年齢児で関わるきっかけとなり、子どもたちがクラス以外の友達も意識して関わるようになった。 ○子どもの姿を認める、褒めることを意識した保育により、認められる自信がつき、友達を認める姿へと成長していった。	○幼児同士の関わりは多く持てたが、乳児とも遊びの中で関わりが持てるよう心の成長に繋げていく。 ○友達の姿を認め合えるようになったが、意識しすぎてトラブルになる場面が多くなった。 ○友達と意見が違うと言い合いになり、自分たちで解決ができない姿が見られる。 ○３・４・５歳児のグループを作り、行事に取り組んだが継続した活動とはならなかった。 ○自分の思いを保育者や友達に伝えることが消極的な姿も見られる。
全体	○初めは、異年齢児と関わる機会を意図的に作っていたが、自然な形での関わりが見られるようになった。 ○保育をしていく上で、職員間の共通理解が不可欠であり、その重要性を改めて感じることができた。 ○クラスの課題を伝え合うことで各クラスの状況を所内全体で把握し、共通理解する事ができた。 ○課題を出す中で、異年齢児との関わりだけでなく、子どもたちの姿から心の育ちの課題も見え、所内全体で子どもたちを理解していくことができた。 ○所内全体で子どもたちを保育していくことで、担任だけでなくさまざまな保育者と関わり合う子どもたちの姿へと変化が見られた。	○異年齢交流の中で経験したことを、今回限りにせず、次に繋げるようにしていく。 ○自然な関わりが増えた中で、更に関わりを深めるために保育者が今後どのように対応していくか考えていく。 ○発達段階が異なる子どもたちが遊べる環境を想定し、どの年齢も楽しめるよう工夫していく。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもたちが健やかに過ごせるよう、職員の意識を共通のものとし、子ども一人一人の心の育ちを見つめながら保育に取り組んだ。コロナ禍での生活が続き、感染を防ぐための対策を継続し、保護者への協力も求めていった。安全面では災害時のマニュアルを見直し、職員で具体的なイメージを描きながら対応を共通理解していった。研修を通して、職員一人一人が学ぶ意欲を持ちながら実践を展開し活発な意見交換等が行われ資質の向上が見られた。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	共通カリキュラムを基に、また、前年度の課題としてあげた、「一人一人の気持ちに寄り添うことの大切さ」を職員で共通理解した上で、異年齢での交流の機会を積極的に取り入れる保育が展開できるよう計画をし、実践していった。保育の振り返りを丁寧に行いながら、子どもの変化・成長を再確認すると共に、“見て学ぶ”子どもの姿を大切にして行く保育に取り組むことができた。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	コロナ禍での生活が続き、子どもたちの保育所での様子を保護者に伝えるには、どのようにしたら良いのか職員間で話し合い、ドキュメンテーションや写真の掲示を多用すると共に、対話の機会を多くもった。 地域や近隣の小学校との交流の機会をもつことはできなかった。

○まとめ

今年度は、昨年度の「心の育ち」を継続していきたいテーマに加えて、「異年齢児との関わり」を意識しての保育を行っていった。

各クラスの課題を出すことで、担任間でしか見えない悩みが保育者全員に伝わり、全員でどのようにしていくと良いのか考い合える良い機会となった。様々な視点からアドバイスをもらい、保育者の見方が広がったことで改めて保育者間で共通理解することの大切さを感じた。

また、意見交換の中で得たアドバイスを、担任間で検討しクラスに合った生かし方で実践と振り返りを繰り返し次の課題を見い出すことで、所内全体で子どもたちの成長を見守ることができた。

初めは、“異年齢児と関わる”ことは“一緒の遊びをする”という考えが強く、意図的に異年齢児で関わるきっかけを作っていたが、子どもたちの心の面を一番に考えることの大切さに気付き、まずは子ども一人一人の気持ちに寄り添って安心して過ごせるようにすることで、子どもたちがお互いに、異年齢児と自然な形で関われるようになってきた。

また、課題を意識することで“今の子どもたちにどのような育ちが必要なのか”を、考えるきっかけとなり、心の育ちも見つめることができた。生活や遊びの中で、相手の気持ちやチームで力を合わせることの意識が薄く、自分のことを考えることでいっぱいだった子どもも保育者が“認める”“褒める”ことを意識した関わりをすることにより、友達の良い姿に気付けるようになってきた。

今回の所内研修を通して、異年齢児と関わることの基盤が一人一人のありのままの姿を受け止め、気持ちに寄り添っていくことが大切であるということを確認し合い、無理のない異年齢児との関わりでの経験と成長を伸ばせるよう、今後さらに関わりを深め、繋げていけるようにしていきたい。

令和３年度

所内研修まとめ

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

サブテーマ　　＜子どもの育ちを保障する＞

～ドキュメンテーションから探る子ども理解～

東金市立第２保育所

令和３年度　　所内研修計画

第２保育所

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

＜子どもの姿：３・４・５歳児＞
- 保育士の提案することには、喜んで参加し楽しんでいる。
- ちょっとしたことで、友達とトラブルになる。
- 自分たちでやりたい！と取り組むが発展性がない。
- 異年齢児に関心はあるが、関わり方が良くわからない。
- 自分の意見がなかなか言い出せない子がいる。
- 自己主張が強い子がいる。

＜子どもの姿：０・１・２歳児＞
- 保育士の構成した環境のもと、自分で好きな遊びをみつけ遊び出すことができるようになった。
- 幼児組さんの遊んでいる様子を見て、真似してやってみようとする姿が見られる。
- お兄さんお姉さんに手を引かれ、同じ活動に参加できることを喜んでいる。

＜昨年の反省をもとに保育士の願いや思いを話し合って。。。＞
- 保育士が誘導・主導しがちになってしまいがちだったが、子どもの姿から**子どもの気持ちを読み解く大切さ**を感じた。
- 子どもたちが今本当にしたいことは、**何なんだろう？と考えること**ができるようにしたい。
- 自分たちが用意した物をみつけ、目を輝かせて**飛びついてくる子どもの姿**をたくさんの場面で見たい。
- **子どもが夢中になって遊んでいる**時は、保育者がその場を抜けることで、子ども達が自分たちで遊びを進められるようになって欲しい。
- 自分が！自分が！という子に、**友達の意見も聞ける**ようになって欲しい。
- 様々な経験を通し**非認知能力**を育てていきたい
- 遊びを生み出す**発想力**をつけて欲しい。
- 子どもの**心情や思いを汲み取れる**ようになりたい。

子どもたちは、どんな思いで活動し遊んでいるのだろうか？それらを理解し、子どもの育ちへと繋げて行きたい。

サブテーマ　＜子どもの育ちを保障する＞
～ドキュメンテーションから探るこども理解～

【仮説】
- 子どもの姿を切り取り、そこから本当の子どもの心の動きを読み取ることで、一人一人の子どもの育ちへと繋げていけるのではないだろうか。
- 保育士が子どもに寄り添うことで、信頼関係がより深まりやりたい！やってみたい！を探ることに繋がるのではないだろうか。
- 子どもの心情を読み解こうとする保育士自身の変化にも繋がっていくのではないだろうか。
- やりたいことを実現出来た時に子ども達は、自信を持って行動できるようになるのではないだろうか。

【研究の手立て】
- 週指導計画を写真を使って記入することで、その場面の子どもの心情や育ちを読み取り保育者の子ども理解へと繋げていく。
- 週案会議を利用し、話し合いの場を多く設けていく。
- 遊びの年間計画を立案し、毎月見直しを行い、その都度子どもの興味関心の実態に沿った環境を用意できるようにしていく。見直しを行った際は、年間計画に赤字で追記する。
- 子どもの姿を写真に撮り、ドキュメンテーションを作成し、そこからの育ちを見出していく。
- ドキュメンテーションを使って、職員全員での話し合いの場を設け、意見を出し合い次へと繋げていく。

【公表と評価】
- ドキュメンテーションを貼りだし、保護者に発信すると同時に保護者からの意見を聞く。
- 巡回指導でのアドバイスを基に話し合いの場を設け、振り返りとその後の計画、実践を明確にする。
- 一人一人の１年の振り返りを行うと共に、園全体での振り返りを行う。
- １年の成果と課題を明確にし、公表する。

＜所内研修経過＞

４月　８日	サブテーマについての話し合い	＊昨年度の反省をもとに話し合う ・保育士それぞれの思いや願いを出し合い、サブテーマを決める。
６月２９日	第１回所内研修会 （Ａグループ）	＊ドキュメンテーションを持ち寄り話し合う ・それぞれのドキュメンテーションから読み取れる子どもの心情や思いを探る
６月３０日	（Ｂグループ）	
７月１４日	研修会からの振り返り （巡回指導を経て、改善点を探る）	＊第１回所内研修会での他の意見を聞き、振り返りを行い、次へ繋げる手立てを考える （0.1 歳児）欲求や思いを汲み取り、気持ちが満たされるような丁寧な関わりをしていく。 （２歳児）　子どもの気持ちを言語化していく。一人一人の気持ちに寄り添い、臨機応変に対応していく。 （３歳児）　自由にクラスの行き来が出来るようにし、遊びの選択肢を広げ、満たしていく。 （４歳児）　意図的に考えたり、発言したりする場を作り、主体的に行動できるようにする。 （５歳児）　子ども発信の遊びを見守り、自ら考え見出していけるよう、人的・物的環境を作っていく。
９月２７日	第２回所内研修会 （Ａグループ）	＊ドキュメンテーションを持ち寄り話し合う ・それぞれのドキュメンテーションから読み取れる子どもの心情や思いを探る
９月２８日	（Ｂグループ）	
１０月２２日	研修会からの振り返り	＊第２回所内研修会での他の意見を聞き、振り返りを行い、次へ繋げる手立てを考える （0.1 歳児）子どもの興味関心を見逃さず、思いに添った遊びの環境を整えていく。 （２歳児）　子どもの気づきに耳を傾け一緒に共感しながら、その子の小さな変化や成長をとらえ環境を整えていく。 （３歳児）　自分の思いを話しやすい環境を作りながら、保育者がすぐに仲立ちするのではなく子ども同士のやりとりを見守っていく。 （４歳児）　子どもの思いに寄り添い気持ちをくみ取りながらも、自分で切り替えたり解決したりできるような関わりをしていく。 （５歳児）　子ども達の「やりたい」という気持ちを遊びに取り入れながら、子ども達で話し合ったり調べたりする機会を作っていく。
１１月２４日	第３回所内研修会 （Ａグループ）	＊ドキュメンテーションを持ち寄り話し合う ・それぞれのドキュメンテーションから読み取れる子どもの心情や思いを探る
１１月２５日	（Ｂグループ）	
１２月　８日	研修会からの振り返り	＊第３回所内研修会での他の意見を聞き、振り返りを行い、次へ繋げる手立てを考える （0.1 歳児）異年齢の関わりを大切にしながら、見たこと聞いたことを遊びにつなげていく。 （２歳児）　自分でやろうとする姿や友達とのやりとりを見守り、自分で考える力を育めるような関わりを大切にしていく。 （３歳児）　様々な遊びを通して無理なく自然と体の使い方を伝えていき、遊びの中で学べる機会を作っていく。 （４歳児）　年長児への憧れの気持ちを生活や遊びへとつなげ、達成感や自信につなげていく。 （５歳児）　子どもの姿や思いを見逃さず、興味や関心が広がっていくようなきっかけを作っていく。
１月１２日	第４回所内研修会 （Ａグループ）	＊ドキュメンテーションを持ち寄り話し合う ・それぞれのドキュメンテーションから読み取れる子どもの心情や思いを探る
１月１３日	（Ｂグループ）	
１月１９日	研修会からの振り返り	＊第４回所内研修会での他の意見を聞き、振り返りを行い、次へ繋げる手立てを考える （0.1 歳児）子どもの興味や発達段階に合わせて援助したり、やってみようという気持ちを大切にしたりして、満足感や自信につなげていく。 （２歳児）　子ども同士のやりとりを見守りながら、相手の思いに気付けるような関わりやきっかけ作りをしていく。 （３歳児）　子どもの驚きや発見に耳を傾け共感し、興味関心を高めながら遊びを展開していく。 （４歳児）　生活や遊びの中で、友達に自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたり、子ども発信の場を大切にし見守っていく。 （５歳児）　やってみたいと思える、やってみようと行動に移せる環境を整えていく。
２月１０日	研修まとめ話合い	＊１年間の振り返り（成果と課題を話し合う）
２月１０日	所内研修資料まとめ	＊資料の構成

＜巡回指導での助言・６月２３日＞

＜巡回指導での助言・２月１日＞

０・１歳児

○石井先生の助言
- マスクをしていることで、口元が見えない分言語化していくとよい。（給食の配膳時もただ目の前に置くのではなく、声をかける）
- 行動指示が先になっているので、子どもの気持ちを優先し、受け止めての言葉をかける。
- 保護者とのコミュニケーションを図る。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 配膳時には、一人一人に言葉をかけながら配膳するようにした。
- 保護者に会えた時には、声をかけコミュニケーションをとるようにした。

○石井先生の助言
- 子どもの内面の気持ちを探って代弁できるとよい。
- 模倣して遊ぶ姿を大切に見守っていく。
- 行動の指示ではなく、声の大きさや、マスクで表情がわかりにくい分、顔の表現力を大切にするとよい。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 子どもの内面の気持ちを探りながら関わっていく。
- 子どもと関わる際の声の大きさ、顔の表情に気をつけ安心して過ごせるようにする。

２歳児

○石井先生の助言
- 行動指示の言葉にならにように気持ちを受け止める言葉かけをするとよい。
- 絵の具遊びをしていたが、子どもが興味を示すであろう道具の準備が不足していた。
- 室内を走り回っている子がいたので、走り回らないような環境設定をするとよい。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 子どもの気持ちをまず言語化する。
- 用具道具の準備をしっかりする。
- パーテーションや机を使ってコーナーを区切り、じっくりと遊べる環境を設定した。

○石井先生の助言
- 身近な手本となる３歳児の遊ぶ姿を見せるとよい。
- 子どもが困っていたり、何か言いたそうなときには、まず気持ちを代弁する言葉を掛けてあげるとよい。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 戸外遊びなど密を避けられる環境で、３歳児の遊ぶ姿を見たり、一緒に遊んだりする機会を作る。
- 子どもの気持ちを代弁する言葉掛けを意識する。

３歳児

○石井先生の助言
- 泡コーナーを砂場の近くにした方が、遊びが融合し盛り上がるのでは？
- 砂山に火山・海・湖の写真を貼っておくと、遊びが広がるのでは？
- 砂場の川に色水をプラスしてみては？

＜助言を受けて行ったこと＞
- 泡コーナーを砂場前に設定し、融合して遊ぶようにした。
- 火山の写真を掲示し、自由に想像しながら遊びの選択を広げていった。

○石井先生の助言
- 遊びからジャンケンの理屈を学ぶ姿が見られた。今後もルールのある遊びや小グループでの遊びを継続していくとよい。
- 子ども同士のいざこざは学びのチャンスなので、保育者が関わり過ぎず見守ることが大切である。

＜助言を受けて行ったこと＞
- ルールのある遊びのバリエーションを増やしていった。
- 子どものやりとりを見守りながら、必要に応じて気持ちを代弁し仲立ちしていく。

４歳児

○石井先生の助言
- 雨が降り出した場面で、外に出るか？出ないか？の判断を保育者にゆだねていたが、４・５歳児は、自分で判断して行動出来ると良い。決定権が大人になっているので、子どもに委ねる経験が必要。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 意図的に考えたり、発信したりする場を作り、主体的に活動できるようにした。
- 自ら行動しようとする姿を認め、見守りながらも個々の発達に応じて適切に関わっていくようにした。

○石井先生の助言
- 自分のコマだけでなく色々なコマを用意することで年間を通して取り組めるのではないか。
- 「試行錯誤」「協同性」が今後のテーマになってくるので、自分で考え、葛藤する場は大切である。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 引き続き、子ども同士のやりとりを大切にしながら介入するタイミングを見極めていく。
- 保育所用のコマを用意し、季節や年齢にとらわれず楽しめるようにする。

５歳児

○石井先生の助言
- トウモロコシの箱をドンとおいたままだったが、箱を開けることで子どもは興味を示す。触れるようにすることでの物的環境作りの工夫が必要。
- 遊びのルールや進め方、子どもが悩んで考える姿を大切にする。失敗をすることも大切。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 子ども発信の遊びを見守り、自ら考え見出していけるように人的・物的環境を作っていけるようにした。
- 子どもから出たルールでの遊びを取り入れ、上手くいかなかった時どうしたらいいかを考えていける場作りや声掛けをした。

○石井先生の助言
- 自己規制にとらわれず、多様な意見が言えるような環境を作っていくようにしたらよいのではないか。
- 遊びが消滅しかけた時には、保育者が助けに入り遊びが継続できるとよい。

＜助言を受けて行ったこと＞
- 多様な意見に共感し、子ども自身の本音が言えるような場を作っていく。
- 遊びの姿を見守りつつ、時には一緒に入り遊ぶ中で、継続して遊び込めるようにしていく。

＜成果と課題＞

	成　　果	課　　題
0・1歳児	・いつも寝転んでいたり、突然奇声を発したりする子の姿を写真に切り取り「どうして寝転んでばかりいるのだろうか」「奇声をなぜ発してしまうのだろうか」と心情を読み解いていった。スキンシップの取り方を工夫したり、興味のあるものを探ったりしていく中で落ち着きどころをみつけると少しずつ友達とも関わって遊べるようになってきた。 ・友達との関わりが見られ、写真に撮ってその場面をじっくりと読み解くことで環境を整えていくことができ、遊びが広がっていった。	・ドキュメンテーションから気持ちを読みとり、その子に合った対応や関わり方を探り関わってみたが、思っていたこととは違ってしまい、読み違えてしまうこともあった。もっと様々な角度から読みとくことの必要性を感じた。 ・見守ることの大切さを感じたが、声掛け・援助のタイミングの難しさも感じた。
2歳児	・お絵描きをしたいと思っていても保育者に言わないとできなかった。その姿を写真で振り返り、遊びに必要な道具を自由に手に取れる環境を整えることで、“やってみたい”と思ったことを子どもが選択して自発的に遊べるようになった。 ・一人遊びや並行遊びが多かったが、写真をもとに子どもの心情を読み解き、気持ちを受け止めたり、代弁したりすることで、自分の気持ちを言葉で伝えたり相手の思いに気付いたりできるようになり、子ども同士の関わりが広がって一緒に遊ぶことを楽しめるようになった。 ・子ども一人一人の姿を写真におさめ、心情を探りながら日々の保育を展開していくことで、今まではなんとなく感じていた一人一人の成長を具体的に把握し、その子に合わせた援助や遊びを用意することができた。	・子どもの気持ちを読み解く中で、読み違う時もあると思うので、職員間で写真をもとに話し合う機会をもち、様々な角度から子どもの心情を探っていく必要がある。 ・写真で日々の様子を振り返ると、年上児の遊びに興味や憧れをもつ姿が多かったので、戸外遊びに限らず、改めて感染対策を考えた上で、生活の場面や室内遊びでも自然と関わり合える機会を作っていく必要性を感じた。
3歳児	・制作をする場面を切り取り 4 歳児との関わりを探るとそれまでは年上児の言いなりであったのが保育士の見守りの中という安心感からか自分の意見を主張する姿へと変化していった。 ・皆と行動を共にできない子の姿を捉え、気持ちに寄り添い心情を読み解いていくと、少しずつ友達を意識し遊びに興味を持って参加するようになった。	・子ども達の“やってみよう”を実現しようと取り組んできたが、“もっとこうしてみよう”という思いにまで成長を促すことができなかった。子どもの思いを汲み取りながら、援助やアドバイスのタイミングを探ることが大切だと感じた。
4歳児	・5 歳児への憧れは、いつの 4 歳児も持って当たり前のような固定概念があったが、子どもの姿を写真で振り返ってみたところ、子どもの姿として憧れを捉える事ができ、そこから環境を整えたことで、更に憧れの気持ちを持って遊ぶ姿となった。 ・遊びには消極的な子の姿を捉えた。友達が声を掛けても参加しなかったが、写真の中のその子は嬉しそうに微笑んでいた。友達の遊ぶ姿を見る事がその子にとっての楽しいことなのだと気付かされた。子どもには一人一人違った楽しみ方があるということを知った。	・子どもがどのような思いであるのか、どのようなことに興味をもっているのか、子どもの思いと食い違い、遊びが継続しないこともあったので、見守るだけでなく一緒に話し合う機会を作り、援助するタイミングを見極める必要があった。 ・子ども同士のやりとりが増える中で、それぞれの思いを主張するが故に、皆で一つのことに取り組もうというところまで至らなかった。話し合いの中で、相手の思いにも気付き、折り合いをつけて遊べるようになって欲しいと思う。
5歳児	・縄跳びをする子が多くなり、曲をかけて跳んだりする中で、見ているだけでやろうとしない子が見られた。写真に切り取ってみると、友達のやっている姿には興味を示しているようだった。その姿から跳んだ回数を可視化したりジャンプ台を設定したりし、チャレンジカードを作った。そうすることで自分もお家の人に見てもらいたいという感情が芽生えたのだろうか、少しずつ参加するようになり、次第に跳べる様になった。 ・生活発表会がコロナ禍ということで中止となってしまった。それを知らせた時の子どもの姿ががっくりと肩を落としていた。子ども達の姿からホールに観客席を作り、ダンスコーナーを設置し思う存分踊れるようにすると、お家の人に見てもらえなかったけれど、年下児やクラスの友達に見てもらえたことで、満足する姿があった。 ・子ども同士の話し合い、遊びの提案、発見等を大切に見守ることで主体的な遊びが増えていった。	・意見をあまり出さない子の気持ちをどう汲み取っていくかは今後の課題である。 ・同じ遊びでも一人一人の思いや楽しみ方は違うので、一人一人にそって色々な角度から思いを読み解いていくことが必要である。 ・写真に切り取った場面の子の気持ちを読み解いていくことを中心に行ってきたが、全員が満足できる読み解きができたか？というと反省も残る。 ・子ども達が遊びの中で、ここからというタイミングでの援助や声掛け次第で遊びが消滅するか発展するかということの見極め。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子ども一人一人の心情を読み解き、そこから子どもの気持ちに寄り添った保育を行うことで、子どもの最善の利益へと繋げていった。またコロナ禍ということで、感染予防対策に努め幼児組の対面に対するアクリル板（クリアファイルで作成）設置を全クラス対面+側面のアクリル板設置へと変更し対応した。園児のコロナウイルス陽性者は一人も出ず、１年間過ごすことができた。研修も全てが中止またはオンライン研修となり、園独自でオンラインの研修を取り入れ職員の資質向上を目指した。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	全体的な計画は、毎年見直しを図り全職員に周知する。そこから月の指導計画（乳児）・期ごとの学級経営案（幼児）を作成。今年度は、週指導計画の作成の仕方を見直し、写真を用いて日誌の部分を記入した。そこから、子どもがどのような気持ちで生活（遊び）をしているのか？本当の気持ちはなんなのだろうか？を読み解くことで、環境構成を考えたり、手立てを考えたり、見守りの仕方・声掛けのタイミングを見計らうことに配慮し保育した。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	コロナ禍になり、地域の子育て家庭を対象にしている園庭開放が中止となり、代替え案として子育て電話相談を実施。実際に電話がかかってくることはなかった。また地域のお年寄りとの世代間交流も全て中止となり、地域の方との触れ合いが希薄になってしまったが、郵便局に切手を買いに行ったことでの交流を持つことができた。 在園する園児保護者には、玄関に各クラスのドキュメンテーションを掲示し、保育の取り組みを写真を使って知らせ、感想を頂く形式をとった。

＜1 年の振り返りとまとめ＞

１年を通してコロナウイルス感染症対策やら行事の見直し等、通常の保育所の姿とは違った年となった。コロナ禍となり２年、子どもたちはどんな思いで保育所生活を送っているのか？どんな思いで遊んでいるのか？写真を通して子どもの思いを探り、子どもの思いに寄り添うことで思いを実現させたりやりたいことがみつかったりやってみたい！やってみよう！と主体的に活動できるのではとの思いから週指導計画に写真を取り込み、写真の中の子どもの心情を読み解き、そこから環境構成の手立てを見出す等じっくりと寄り添うことで子どもの育ちを保障していった。

４回の所内研修では、１枚の写真から状況を聞き様々な意見を出し合う中で一方からの心情を探るのではなく、多方面からの意見を聞くことで、より子どもの気持ちを読み解くことに繋がっていき話し合いの重要性を感じた。

日々子どもと接する中で保育士の意識が、今子ども達はどんな思いで遊んでいるのだろう？この子に声をかけるタイミングは今ではないのでは？と場面場面で葛藤し考えながら行動し、子どもの気持ちを捉え接していくことで少しずつではあるが、子ども達は自分の意見をはっきりと言うようになったり、やってみたい！と言うことが増えたり、「やっていい？」から「〇〇やりたい！」と変化していき、自分のやりたいことを実現するには何をすればいいのだろうと考えるようにもなった。また、異年齢での関わりをもつことで小さい子に対して自分がしてもらった経験から優しく接するなどの姿が見られるようにもなった。

今年の１番の収穫は保育士の意識改革と言っても過言ではない程、一人一人が子どもの本当の気持ちに気付けることが多くなり、待つこと見守ることを体得した。それによって、子どもは自ら考える力、行動できる力をつけ、生きる力を育んでいったと言えるだろう。

令和３年度

所内研修まとめ

市内保育所共通テーマ

「生きる力を育む」

第３保育所サブテーマ

「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」

東金市立第３保育所

令和３年度　　所内研修計画

テーマ　「生きる力を育む」

サブテーマ「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」

≪子どもの姿≫
① やってみたいと思いを伝えられるようになった一方で、自分の思いを発揮できずにいる。
② 同年齢での関わりは増えてきているが、異年齢との関わりが少なくなっている。
③ 興味をもった遊びに参加するようになってきているが、遊びが単発となり継続するに至らない。

≪保育者の願い≫
① 自分で考えたり、友達と決めたりして遊びが展開できるようになってほしい。
② 自然と異年齢との関わりがもてるようになってほしい。
③ 継続的に遊ぶことで達成感や満足感を十分に感じ、自信や意欲へとつながってほしい。

【昨年度からの“やってみたい”“やってみよう”“考えよう”からのつながる保育を
今年度も継続していく中で、子ども達の自己肯定感を高めていく。】

サブテーマ　「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」

≪仮説≫
・生活や遊びの中で、『できた！』を積み重ねていくことで、自己肯定感が高まり、様々なことに挑戦していけるのではないか。
・ポートフォリオを用いて、子どもの気持ちや行動の意味を職員間で話し合い、保育の見直しや課題を明確にすることで、次の手立てにつなげられるのではないか。

≪手立て≫・・・昨年度の反省・課題を踏まえて…
・年齢ごとにねらいを設定する。
・保育者や年長児がモデルとなって、「やってみよう！」と挑戦したり、子ども達で遊びを展開したりできるような環境構成や援助を探り、実践していく。
・乳幼児ともに混ざり合って遊べるような環境を工夫していく。

●研究方法

１．期ごとに全職員で話し合いの機会をもち、その都度課題を提示して、保育についての共通理解を図っていく。
２．ポートフォリオを用いて、保育者間で子どもの様子を共有したり、保護者に発信したりしていく。
３．巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しを行っていく。

≪所内研修の経過≫

回	実施日	内容
1	４月　６日(火)	・昨年度の所内研修で良かったこと・反省点 ・サブテーマの捉え方についての話し合い
2	４月27日(火)	・所内研修サブテーマ決定 ・保育者の願い・仮説・手立て等について
3	６月２日(水)・３日(木)	Ⅰ期エピソード記述にて情報を共有する。
4	６月30日(水)	第１回石井先生巡回指導
5	７月６日(火)・８日(木)	巡回指導を踏まえて、反省・課題の話し合い。
6	９月14～16日 (3日間)	Ⅱ期エピソード記述にて情報を共有する。
7	12月13,15,16日 (3日間)	Ⅲ期エピソード記述にて情報を共有する。
8	12月24日(金)	第２回石井先生巡回指導
9	12月27日(月)	巡回指導を踏まえて、反省・課題の資料を回覧し共有する。
１０	１月26日(水)	１年間の反省・成果・課題について話し合う。 所内研修まとめ・事例集作成
１１	２月17日(木)	所内研修まとめ・事例集の提出締め切り
１２	３月11日(金)	所内研修まとめ発表

≪年齢別のねらい≫

０・１歳児「一人一人の生活や遊びの中で、できた喜びを感じられるようにする。」

２歳児「異年齢のしていることに興味をもち、進んで関わりをもてるようにしていく。」

３歳児「いろいろな活動に興味をもって取り組む中で、最後までできるようにしていく。」

４歳児「いろいろな活動に取り組む中で、友達との関わりを深めながら考えたり、進めたりできるようにしていく。」

５歳児「生活や遊びの中で共通の目標をもって、友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わえるようにしていく。」

≪石井先生　巡回指導≫

第１回（6 月 30 日）
〈0・1 歳児〉
・一人一人の好きな遊びを取り入れ、動と静で遊べる環境があるといい。
・描いている姿、作品、発達の段階を保護者にわかりやすく掲示していくとよい。
〈2 歳児〉
・幼児と関わる機会を増やしていくとよい。
・子どもの人数が少ないので、子どもの思いや興味に合わせて動く。
・大人がモデル。保育者自身が楽しんでいると子どもも遊びに入りやすい。
・子どもの制作の完成度が高いので、子どもらしい作品がよいと思う。
《乳児全体》
・行動を促す言葉・評価ではなく、「～できて嬉しかったね」など内側にある気持ちを言語化する。
《幼児全体》
・素材が増えていくと、ごっこ遊びや制作などもっと盛り上がっていく。
・子ども達で、洗濯板と石鹸を使って自分の服を洗えるのではないか。洗濯ごっこにつながる。
・窓に絵が描かれていてよかったが、描きたいときに描ける環境があるといい。
・どこで遊ぶか、何をやるか自分で選択できるように、ボードを用意するといい。(4・5 歳児)
《誕生会》
・誕生会によって、遊びが中断してしまった。自分からいけるような会になっていない。
・毎月のこと・運動会はこういうものなど行事について見直す必要があるのではないか。
・年長児が行事に向けて話し合い、準備をしていけるとよい。

助言を受けての変化・今後の課題
（〇）　（☆）

第２回（12 月 24 日）
〈0・1 歳児〉
〇動の遊びでは廊下で坂道や段差などの環境があり、救急車や消防車にリメイクされたコンビカーで体を動かす遊びを取り入れ、静の遊びでは室内で指先を使う遊びがあってよかった。
〇子ども達の作品を手作りの額縁に入れて飾ってあるのはすごい。
☆いろんな動きの経験（吹く遊び、引っ張る遊びなど）を取り入れていくとよい。
〈2 歳児〉
〇年上の子が身に付けている物に興味を示し、一緒につくれたことで満足そうであった。
〇子どもが生き物を枝で表現していたのはすごい。
《幼児全体》
〇ジャングルだけではなく、その中にままごとや絵本などのコーナーがあったのはよかった。
〇室内から戸外への遊びが途切れないのはよかった。
☆子ども達からアイディアを出し合ってつくり上げる経験が大切。そのためにも素材を増やしていけるとよい。
☆コロナ禍ではあるが、手指の消毒をして自分達で配膳してもよいと思う。（4 歳児）
☆自分の主張ができていない子が多いので、話し合いの場を多くつくっていくとよい。（5 歳児）
☆意思表示ができるように、1 日の中で何が楽しかったのかを聞いていくとよい。

【年齢別の成果と課題】

	成果	課題
５歳児	・米づくりや花壇づくりを通して、制作などじっくり取り組む姿や友達と協力をし、声を掛け合いながら 1 つのことを行う姿も見られるようになった。また、その中で子ども同士の関わりも深まり、気持ちの伝え合いからどうしたらよいのか自分達で考え、問題を解決するようになってきた。 ・自然事象への興味や関心が深まり「やってみたい」からの気づきが増えていった。	・4 月から縦割り保育に戻ったことで、一度まとまった子ども達が集団から個々になってしまったように感じた。なかなか１つにまとまらず、共通の目標を遊びの中で作ることが難しかった。縦割り保育になると子どもの人数も少なく、共通した遊びが継続しにくいように思うので、新年度になった際にクラス・年齢別で十分に話し合っていくことが課題となるのではないか。就学に向けてアプローチカリキュラムを行うには、同年齢での活動に重点を置くことができたらよいのではないか。
４歳児	・同年齢での活動が増えてきたことで、１つの目標に向かって取り組みながら、友達とのつながりを感じ、自分のイメージや経験を伝え合い、遊びを進めていけるようになってきた。 ・遊びの選択ができるように応答ボードを取り入れたことで、「今日は何をしようかな？」「〇〇で遊びたい！」と自分で考え、行動するようになり、「これで遊んでいいの？」と保育者に聞いてくることがなくなってきた。	・話し合う機会をつくったことで、思いを伝えられる子も増えてきたが、一方であまり意見を伝えられない子もいるので、丁寧に思いを聞いたり、話しやすい雰囲気を心がけたりしていきたい。 ・遊びや生活の中で、年長児との関わりを大切にしてきたが交流が少なかったように感じる。憧れや期待感を感じられるように保育者自身が働きかけていく必要があった。
３歳児	・やってみたい、面白そうの気持ちを大切にし、さりげなく環境を整え、見守ったり、保育者も一緒に関わったりすることで、試したり、調べたりしながら、継続して遊ぶ姿が出てきた。 ・遊びの中で、楽しい、できた等の気持ちを味わえるようにしたことで、生活面でも自分でやろうとする意欲が出てきて、最後まで取り組めるようになってきた。	・慣れた環境の中では、身の回りのことを自分でしたり、思いや要求を伝えたりできるようになっているので、来年度も同じ生活の流れを継続し、自信をもって取り組めるようにしていきたい。
２歳児	・子どもの興味を見逃さずに捉え、遊びの環境を設定していった。０・１ 歳児と関わりをもちながら遊んでいた電車遊びに線路を加えたり、幼児組の方へ線路を延長したり、また、道路標識を加える等イメージが膨らむよう様々な工夫や場の設定をしていった。意図的に幼児組へ誘いかけるようにしたことで幼児組を真似たり、手本にしたりして一緒に遊ぶ姿が多く見られるようになった。	・室内遊びだけではなく、戸外遊びでも子ども達の意思で異年齢との関わりがもてるように、保育者が働きけていくことが必要だった。 ・少人数であったこともあり、クラスではじっくり遊ぶことができるが、人数が多かったり、賑やかな場だったり、違った環境になった時の心の安定を図っていけるようにしたい。
０・１歳児	・遊びに消極的な子や感情を表現することが苦手な子に対して、個々の関わりを大切にしながらその子のペースに寄り添うように配慮した。どんなことに興味をもっているのかを探り、コーナーや手作り玩具など取り入れたことで、好きな遊びを選ぶことができるようになってきた。更に自信につながったことで、表情が明るくなり、積極的な姿が見られるようになってきた。 ・年間を通して、指先を使った遊びや身体機能の発達につながる遊びを十分に取り入れたことで、身体的機能も高まり、興味や好奇心も広がってきた。	・更なる機能の発達を促すために、「吹く」という動作を遊びに取り入れていく。 ・子どもの絵を手作りの額に入れて飾るだけでは無く、保護者に対して表現や育ちの意味をもっと発信していく。

【園の成果と課題】

成果	課題
・戸外だけではなく、室内でも乳幼児で関われるように環境を整えたことで、自由に行き来して遊ぶ姿が見られた。 ・後半、幼児組は年齢別で過ごすようになると同年齢の友達との関わりも広がり、同じ目的に向かって活動を進めていくことができた。	・縦割り保育ということで、各年齢のねらいをもって保育にあたったが、その年齢の子どもの様子や育ちを追っていく難しさを感じた。 ・年齢別で過ごすようになると自由に行き来できていないので、職員間で連携を図り、子ども達で遊びの選択ができるように環境を整えていきたい。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子ども一人一人の気持ちを受け止め、寄り添い子どもの気持ちをくみ取ることの大切さを全職員が共通理解し、自信をもってなんにでも挑戦しようとする意欲を育めるような環境や援助を探りながら、所全体で取り組んできた。外部講師のアドバイスを参考に職員全体で所内研修を重ね、子どもの興味や関心を広げられるような環境構成を考慮し、保育の質を高められるように努めた。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	共通カリキュラムに基づき、全体的な計画、学級経営案、月指導計画、週指導計画を作成し、日々の保育を振り返り、今後の保育に活かせるようにしている。昨年度の経験を活かし、様々な制限がある中で、子ども達が楽しめるような計画を立案し、柔軟な対応や工夫をして保育を展開していった。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	保護者の不安を取り除けるように思いを理解することに努め、コミュニケーション不足にならないように丁寧な対応を心がけた。月４回行っている園庭開放はコロナ禍のためできなかったので、１２月より電話子育て相談の実施を広報、ホームページにて掲載し月２回行った。感染予防に努めながら、散歩時、地域の方より花の種をいただいたり、サツマイモを掘らせていただいたりと少しずつではあるが交流できた。

【まとめ】

昨年度は【やってみたい・やってみよう・考えようからのつながる保育】をサブテーマとし、研究を進めてきたことで、子ども達から「〇〇したい」と思いを伝えられるようになってきた。しかし一方で、自信がないことから思いを伝えられない子や保育者がそばを離れると遊びが終わってしまう姿が見られた。

今年度は「自信をもってなんにでも挑戦できるようになるための援助を探る」というサブテーマに沿って取り組み、ポートフォリオを活用して可視化することでより一層、共通理解を深められるようにした。子どもの育ちや職員間で援助の仕方について意見を出し合い、自分達の保育を振り返り、実践を繰り返す中で更によりよい援助を見つめなおしてきた。時間外職員にもエピソードを書いてもらったり、研修資料を配布して日中の職員がどのようなねらいをもって、活動しているのかを伝えたりしたことで、全職員の共通理解につなげることができたのではないかと思う。また、ポートフォリオをドキュメンテーション化することで、保育の様子や保育者の意図が保護者により分かりやすく伝わるように工夫した。

今回の取り組みから、子ども達がやりたいことをのびのびとやってみようとしたり、思いを伝えようとしたりする姿が見られるようになってきているので、今後も自信をもって挑戦できるように子どもの姿を追っていき、保育者自身の日々の保育のあり方について振り返り、職員間で共有し、連携を取りながら、子ども達の生きる力を育めるようにしていきたい。

令和３年度
所内研修まとめ

市内保育所共通テーマ
「生きる力を育む」

第４保育所サブテーマ
「子ども達がやりたいことを実現するための保育者の役割とは…」

東金市立第４保育所

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」

（第４保育所の様子）
・「自己肯定感を高める援助」を念頭に保育を進めてきたことで、子どもも保育者も、安心して自分の気持ちを表し、のびのびした雰囲気で生活や遊びが進められるようになってきた。クラス担任の枠を越えて話し合いができ、子どもの姿を共通理解もできるようになってきた。
（気になる子どもの姿）
・特定の友達とのかかわりが多く、輪の中に入れない子がいる。
・困難な場面や友達とのトラブルの際、自己主張ばかりで、大人に解決してもらおうとする子がいる。
・経験不足から新しいことや体を動かすことに消極的な子がいる。

（保育者の願い）
・遊びや生活の中で、やりたいことを実現できた達成感や喜びを感じ、自分に自信を持ってほしい。
・自分の思いを年齢に応じた表現方法（言葉や仕草など）にして相手に伝えたり、相手の話しに耳を傾けたりできるようになってほしい。
・相手の話しを最後まで聞けるようになってほしい。

R3 年度第４保育所のサブテーマ

『子ども達がやりたいことを実現するための保育者の役割とは…』

【仮説】
・日々の保育の中で、子どもの姿や仕草、そして言葉から、今何をしたい・何を作りたいのか気持ちを汲み取りながら、物的環境・人的環境を整えていくことで、やりたいことを実現していけるのではないか？
・園全体の職員が連携していくことで、子ども達の遊びや育ちを共有できるのではないか？

【手立て】
・日々の保育の振り返りや、子どもの発した言葉や遊びの様子から、考察・反省をしっかり行い、物的・人的環境を整えていく。
・週案会議、所内研修、何気ない雑談など、コミュニケーションの場で子どもの姿や自分の考えを積極的に伝えあったり、相手の話をじっくり聞いたりしていく。

【研究方法】
・クラスごとに話し合いたい事例を提出して事例研究し、そのクラスの子ども達や担任保育士の強みや弱み（特性・得意なこと苦手なこと）を見つけたり、それぞれの考えや思いを話したりしながら、全職員で共有していく。事例はポートフォリオも活用しながら、保護者にも発信していくようにする。
・巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しをする。

〇所内研修の経過〇

回	実施日	内　容
1	４月１５日（木）	クラスの実態についての話し合い サブテーマ決定
2	４月２０日（火）	保育者の願い・仮説・手立てについて 研究方法について
3	５月１４日（金）	所内研究計画完成・提出
4	６月１６日（水） ～１８日（金）	たんぽぽ組事例研究① 意見交換
5	７月２日（金）	第１回巡回指導
6	７月７日（水） ～９日（金）	もも･つくし組／ひまわり組　事例研究① 意見交換
7	７月２１日（水） ～２７日（火）	さくら組／ゆり組　事例研究① 意見交換
8	８月２日（月）	１回目の事例研究を終えての振り返り 巡回指導を受けての反省
9	10 月 25 日（月） ～29 日（金）	たんぽぽ組事例研究② 意見交換
10	11 月９日（火） ～12 日（金）	ひまわり組／ゆり組　事例研究② 意見交換
11	11 月 22 日（月） ～29 日（月）	もも・つくし組／さくら組　事例研究② 意見交換
12	12 月 24 日（金）	２回目の事例研究を終えての振り返り １年間の成果と今後の課題について
13	２月 17 日（木）	第２回巡回指導
14	２月 18 日（金）	巡回指導を受けての反省
15	２月 21 日（月）	所内研修まとめ作成

今年度は、それぞれの良さを認めて、子どもも大人もやりたいことをのびのびやることや、職員間で沢山話しをして意見交換をすることを大切にしました！

～事例研究の方法～

〇各クラスがみんなで話し合いたいエピソードができた時に事例を作り、話し合いを行った。

〇話し合いは３グループ（６～７人）で編成し、少人数で意見交換しやすいように工夫した。１つの事例に対して 20～30 分ほどに設定していくと、限られた時間の中ではあるが、集中して話し合うことができ、負担に感じることがなかった。

〇短時間勤務や時間外保育の職員にも事例を読んでもらい、感想を書いてもらうことで研修に参加してもらった。園全体で各クラスの保育の様子や保育のねらい、子ども達の成長を共有することに繋がっていった。

←事例研究で使用した“対話カード”

事前に話したいことを整理するメモとして活用

事例に対しては、**「良い所」「次に向けて」**という視点で意見交換を行った。
雑談の時間も作り、質問や話したいことを自由に話せるようにした。

ある日の事例研究の様子→

アイス屋さんを盛り上げるにはどうしたらいいか？みんなでアイディアを出し合う中で、職員の好きなアイスの話で盛り上がった日もありました…。

【石井先生の巡回指導を受けて】

第１回目（７月２日）

（０・１歳児）※人見知りの子が多く、あまり見て頂くことができなかった。

・製作は手形でカニを作ったが…みんなが同じ製作をする必要はないのでは？

（２歳児）

・室内遊びを継続してするのであれば、おやつ前に片付けをする必要があるのか？そのままの状態でとっておくことでもっと遊びが盛り上がるのでは？

・造形あそびがのびのび楽しめている。絵具あそびの後片付けも子ども達が上手に行えていた。紙のサイズを大きくしたり、窓ガラスに描いたり、もっとダイナミックに遊んでもいい。

・手形のカニやヒマワリの作品は大人が型にはめてしまっているのでは？

（３歳児）

・年齢ごとに素材の違いに差がない。

・子どもは体験したことが表現・造形・歌となっていくので、沢山経験をさせてほしい。本物を沢山見せることが必要。

・保育者のやることに乗れない子どもの対応、職員の役割分担を考える。

（４歳児）

・アイス屋さんごっこを展開できるように移動販売はどうか。

・廃材制作コーナーの素材や材料の準備が足りない。子どもがどう扱うのか使い方を考えながら用意すると良い。

（５歳児）

・お店屋さんごっこに向かっていくには、廃材制作の素材が足りない。リアルなお店のイメージがあると良い。

・保育者が制作のモデルとなっていたのが良かった。

第２回目（２月 17 日）

【保育者のかかわり方】

保育者が子どもの姿から、「何が必要か？」「今、どうかかわるべきか？」を常に考え、援助をしていくことが大切。そのためにも、複数担任が連携していくことが必要。

【表現あそびについて園全体で検討を！】

造形あそび、表現あそびは自由にアウトプットしていけることが重要。「お雛様」「鬼」などテーマがあってもみんなで同じ形を作る必要はなく、子ども達が自由にイメージを広げて作ることができる活動になるとよいのではないか。

【ビオトープ作りについて】

３ 歳児が穴を掘って作ろうとしていたビオトープがなくなってしまった（安全面に配慮し、戸外に大きな水槽を置く形になった）ことが惜しい。代替案を考えて今の形になったが、職員間も「これでよかったのか？」とモヤモヤが残っている様子。子どもがやろうとしていたことなので実現できると良い。

【今年の経験を来年度に引き継ごう！】

それぞれのクラスにテーマがあり、楽しんできた活動や積み重ねてきた経験を次年度にどう引き継いでいけるかが大切。次年度担任になる保育者が、今年度作成したポートフォリオを活用し、どのような環境設定や保育をしていたのか引き継いでいってほしい。

【成果】

保育者の変化	子どもの変化
・保育の中で子どもの姿や仕草、言葉などから、「何をしたいのかな？」「何を作りたいのかな？」と子どもの気持ちを汲み取ろうと意識することができるようになった。	・やってみたいことが実現しやすい環境になったことで、自分を安心して出せる子が増え、自分の好きな遊びや得意な物を見つけることができた。
・保育者がモデルとなって、子ども達のやってみたい！という気持ちが引き出せるような見本を作ってみたり、楽しく遊ぶ姿を見せたりすることの重要性に気づけた。	・制作、運動あそび、ごっこあそび、生き物の飼育など、それぞれのクラスが子どもの姿に合わせていろいろな遊びを楽しみ、できることが増えたことで、遊びの幅が広がった。
・事例研究を全職員で取り組むことで、それぞれのクラスの特色や今盛り上がっている遊び、どんな良い所があるか、次に向けてどんな所を工夫していくと良いかをみんなで共有し、理解することに繋がった。	・保育者や友達が楽しんでいる姿を見ることで、新しいことへの興味や、やってみたいと思う気持ちを持つ子が増えた。また、やってみたことで「楽しかった」「できた」という成功体験に繋がり、次への意欲や自信が持てるようになった。
・所内研修や日々の保育の振り返りをする際に「こんなところが良かったね」と認められる機会が増えたことで、保育者も意欲や自信を持つことができた。助言や改善点についても、“もっと良くしていくため”というポジティブな視点で受け止め、保育に生かしていくことができた。	・好きな遊びを継続してやり込むことができるようになり、子ども達からの気づきや「もっとこうしてみたい」というアイディアが沢山出てくるようになった。

保育者がのびのび楽しく保育をする姿が、子ども達にも伝わっていった。保育者が自己実現している姿を見せることは、子どもの「やりたい」を引き出したのではないか。

また、保育者が子ども一人一人の姿に合わせた工夫をすると、子ども達の意欲が引き出されていった。保育者が『人的環境』を兼ねていることを改めて実感した。

【次年度に向けた課題】

・コロナ禍ということや年齢別保育をしていることで、異年齢交流の場を持つことがあまりできなかった。各クラスが子どもの姿に合わせて、興味のあることや得意なことを伸ばしていこうと保育することはできたが、そこからどんな異年齢交流ができるか？という視点を持って話し合いをしていくことは足りなかったように感じる。

・今年はそれぞれのクラスの特色（興味・関心・得意なこと）を存分に発揮できるような保育が行われ、各クラスの良さを職員間で共有することができたが、次年度、担任やクラスのメンバーが変わっても、子ども達が今年経験したことを活かしてより発展させていけるような保育ができるのかが課題である。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	保育者として子どもの最善の利益を考慮し情報共有を図りすべての保育者が共通理解・共通認識を持って保育にあたった。 コロナ禍において徹底した感染対策、個人情報に配慮した健康観察カードを用いた。ヒヤリハットの記録も活用し、安全にも配慮した。所内研修を行ったことで一人一人の子どもの理解にとどまらず、職員同士が互いの保育の理解を深めることができ、自己研鑽に努めたことで資質向上につながった。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	本市の保育理念・教育保育目標をもとに第４保育所の今年度は「子ども達がやりたいことを実現できる保育者の役割とは…」をテーマとして計画を作成し、人的環境・物的環境を整えてきた。話し合いを定期的に行い、実践・評価・反省・改善を繰り返すことで、園全体で共通理解が生まれ保育に統一性が出てきて安定した保育活動が営まれるようになってきた。今後も計画・反省・評価をしっかりと行っていきたい。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	コロナ禍２年目で行事等の制限が続いたが、手紙を配布したりポートフォリオの掲示を行ったり、担任が丁寧に話をするなど保護者との信頼関係を築いてきた。子育て支援の園庭開放・世代間交流会が中止となる中、食生活改善会と連携し、お料理レシピを配布することで家庭でも食への興味を引き出すことができた。戸外活動では地域の環境保全会や畑の持ち主の方と連絡を取り、コスモス畑への散歩やイチョウ畑への散歩等を行うことができた。このことで、地域の方々との交流も深まり次年度へと繋がっていく取り組みとなってとてもよかった。

【まとめ】

昨年度、「自己肯定感を高める援助」を念頭に保育を進めてきた結果、子どもも保育者も、やりたいことが見つけられるようになってきた。そこで、今年度は「子ども達がやりたいことを実現するための保育者の役割」に着目して取り組んでいくこととなった。

研修を進めていくにあたり、大切にしてきたことは、それぞれのクラス（子・保育者すべて含め）の良さを職員間で認めていったことである。「こんなところが良かったね」と認められることは自信になり、保育者の自己肯定感や意欲になった。自分の考えややりたいことが出せるようになり、会話も自然と増えていったように感じる。反省点や改善点、もっとよくしていくための助言に対しても、受け止めて前向きに保育に取り入れていくことができた。保育者が自分のカラーを出して楽しく保育する姿は、子ども達の「楽しそう！」「やってみたい！」という思いを引き出すことに繋がったと考えられる。

また、保育者が子どもの姿や仕草、言葉などから、子どもの気持ちを汲み取ろうと意識し、教材準備をしたり、コーナー設定をしたり、環境構成も工夫するようにしてきた。やってみたいことが実現しやすい環境になったことで、自分を安心して出せる子が増え、好きな遊びを楽しんだり得意な物を見つけたりすることに繋がった。好きなことを継続して楽しんでいけるようにすることで、子ども達からの気づきや「もっとこうしてみたい」というアイディアが沢山出てくるようになったのは良かった。

今年度は、それぞれのクラスの特色（興味・関心・得意なこと）を発揮できるような保育が行われ、それぞれのクラスの保育の様子や子ども達の成長を職員間で共有することができたことで、のびのびした雰囲気が保育所を包んでいた。次年度、担任やクラスのメンバーが変わっても、子ども達が今年経験したことを活かしてより発展させていけるような保育ができるのか、また年齢別保育やコロナ禍の中、異年齢交流をどのように工夫して行っていくかが課題として残っている。今年度の成果を来年度に生かしつつ、改善すべき点にも目を向けてより良い保育を目指していきたい。

令和３年度
園内研究まとめ

共通テーマ 「生きる力を育む」

サブテーマ 「 気付き・考え・表現できる子
～様々な感情体験を通して～ 」

東金市立福岡こども園

令和３年度　園内研究計画

福岡こども園

共通研究テーマ　　「生きる力を育む」

福岡こども園サブテーマ　「気付き・考え・表現できる子　～様々な感情体験を通して～」

《保育者の願い》

【0,1歳児】・保育者とのかかわりの中で、安心して自分の気持ちを表し、伝わる喜びを感じてほしい。
【２歳児】・友達との触れ合いの中で、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。
【３歳児】・好きな遊びを保育者や友達と一緒に楽しむ中で、友達にも思いがあることを感じてほしい。
【４歳児】・自分の思いを出して遊ぶ中で、友達の思いにも気付いてほしい。
【５歳児】・自分の思いや考えを言葉で表現できるようになってほしい。その中で、相手の思いや表現を受け止めたり、伝え合う楽しさを感じたりしてほしい。

↓

昨年度の反省・保育者の願いを踏まえてサブテーマを決定

↓

気付き・考え・表現できる子～様々な感情体験を通して～

《仮説》

〇保育者が一人一人の甘えや要求を丁寧に受け止め、ありのままの姿を認めることで、自分らしい言動、思いの表現ができるようになるだろう。
〇遊びや生活の中での様々な感情体験を言葉にして伝えることで、友達の思いに共感したり、自分とは違う思いに気付いたりすることができるだろう。
〇遊び込める環境を作ることで、遊びの中から友達の良さに気付いたり、相手を認めたりすることができるようになるだろう。

《手立て》

【保育者の援助】
- 一人一人の思いに寄り添い共感したり、受け止めたりすることで、自分の思いを安心して表現できるようにしていく。
- 友達とのかかわりの中で、友達の感情や思いに気付けるように、状況に応じて声を掛けたり必要な言葉で表して伝えたりしていく。
- 子ども達が遊びの中で経験している感情体験を、職員間で共有していく。

【環境構成】
- ままごと、ごっこ遊び、集団、共同遊び等、友達と同じ場で遊ぶ機会を作っていく。
- 廊下やホール、園庭等の環境を季節や遊びの状況に応じて再構成しながら、十分に遊べる環境を整えていく。
- ポートフォリオ等を活用し、子どもの姿や保育者の願い、意図を保護者にも知らせていく。

【研究方法】
- 期ごとに職員間で話し合いの機会を持ち、共通理解を図っていく。
- 日常の姿や保育について、ポートフォリオを事例研究に取り入れながら、子どもの姿を職員間で共有していく。
- 巡回指導での助言を受け、反省、改善点を話し合い、課題の見直しをしていく。

《園内研究の経過》

☆サブテーマ「気付き・考え・表現できる子～様々な感情体験を通して～」を念頭に置き、定期的に園内研究を実践してきた。

回	実施日	内　　容	
1	4月20日（火）	クラスの実態についての話し合い 昨年度の反省から園内研究サブテーマ決定	・年度当初の各クラスの実態について話し合いサブテーマを考えていく。 ・研究計画を作成するにあたって、各年齢で保育者の願い・手立てについて考える時間を十分とり、研究計画を作成し、共有した。
2	4月28日（水）	各年齢の保育者の願い・手立て　提出	
3	5月　6日（木）	園内研究計画完成・提出	
4	6月18日（金）	第1回石井先生巡回指導	・巡回指導での助言を受け、各年齢の反省、改善点を確認する。また、普段の保育について職員間で話し合い、共通理解を図った。
5	6月21日（月）	巡回指導を受け反省・課題の話し合い	
6	7月　6日（火）	ポートフォリオを活用して意見交換①	・ポートフォリオから感じる子どもの思い・表情、遊びの様子、保育者の援助等、自由に意見交換をする。（3グループに分かれて行う）
7	7月　9日（金）	〃　②	
8	7月12日（月）	〃　③	
9	10月20日（水）	ポートフォリオを活用して意見交換①	・各年齢の子どもの姿、遊びの様子、かかわり方等、自由に意見交換をする。（2グループに分かれて行う）
10	10月27日（水）	〃　②	
11	12月14日（火）	ポートフォリオを活用して意見交換①	・各年齢の子どもの姿を共通理解すると共に、普段の保育で困っている事などを話し合い、よりよい保育へとつなげていく。
12	12月15日（水）	〃　②	
13	12月20日（月）	〃　③	
14	2月　3日（木）	第2回石井先生巡回指導 巡回指導後、保育の振り返り	・今日の保育を振り返り、指導を受ける。行事への参加の仕方や行事が終わった後の遊びの設定等、職員間で課題を見つけ、共通理解を図った。
15	2月　8日（火）	各年齢の1年間の成果と今後の課題、園全体での反省、課題について話し合い 園内研究まとめの作成	・各年齢での成果と今後の課題について話し合う。それを基に、園全体での反省、研究方法等はどうだったのか、意見交換をしながら1年間の保育を振り返った。子どもの姿から、次年度の園内研究へつなげていく。

●第１回巡回指導を受けて（６月）

【０・１歳児】
・子どもが不安な時や保育者を求めている時には、抱っこ等のスキンシップをとるのは良いが、保育者が先導して子どもの手をひいたり、抱き上げて移動させたりすることは良くない。
・よちよち、ハイハイ、スタスタの３段階の姿がみられる中、うまく遊び込める環境になっている。
【２歳児】
・たんぽぽカフェは良かった。うまくテラスを活用している。
・年上児の中に入って遊べる経験を今後も作っていく。
【３歳児】
・年上児の中に入っていたり、真似から遊びへとつながっていたりする所が良かった。
・生活の場面で絵カード等を活用してみては。生活の流れをルーティン化していく。
・子どもができるものは大人はやらない。子どもがやることを徹底していく。
【４歳児】
・虫の扱いが乱暴な姿があるので、年長児の飼育コーナーの近くに４歳児も設定することで、年長児から世話の仕方を教えてもらうことができるのでは。
・泡遊びでは２歳児と同じことをやっていたので、年齢差を付けて遊びを変えていくことが必要。
【５歳児】
・映画館ごっこは、年長児ならもっと本格的にイメージしてそれに向けて取り組める。
　ペープサートを使うのなら、普段の遊びの中から他クラスに行って発表しても良かった。
・子どもになんでも決めさせる。自己決定、選択する場面が必要になってくる。
　ボードを使って活動内容を決めてもよいのでは。（遊びの内容や活動の順番など）

●第２回巡回指導（２月）

助言を受けての変化（〇）　今後の課題（☆）

【０・１歳児】
〇保育者が年上児の中にいることで、子どもも安心してそばで楽しむことができていた。
☆「次は手を洗うよ」「消毒するよ」等、生活面で子どもの動きを促すための言葉掛けが多かった。
　子どもが言葉を覚えたり発語を促したりできるようなかかわり、言葉掛けを工夫していくとよい。
【２歳児】
☆進級に向けてもう少し３歳児と一緒に遊んだり活動したりできるようにする。
　保育者が意図的に誘い掛ける必要がある。
☆子どもが作ったものを遊びに繋げるために、素材を増やしたり環境の再構成をしたりすることが必要。
【３歳児】
☆絵カードや写真を取り入れて生活の流れを知らせている。気持ちの切り替えがなかなかできない子もいるが、この時期は進級に向けて自分のことは自分でやれるように促す必要がある。体と気持ちのコントロールがうまくできない子が多いのかもしれない。慎重に物事を進められるような活動、例えば汁物や牛乳を運ぶ等、取り入れてみてはどうか。
☆子どもの姿に応じて環境を設定していく
【４歳児】
〇年上児からラキューを見せてもらったり、教えてもらったりする場を作るようにしている。
☆少人数の中で、思いを出しながら何かを決める活動を取り入れていく。（進級に向けて）
【５歳児】
☆節分の鬼のお面は、色を塗るだけの作品だったのでもっと素材を取り入れた作品作りができるとよい。
　また、戸外にもっと早く出てくるべきであった。話をすることも大切なのだが、豆まきが終わってから改めて節分について話をしたらどうか。その時の遊びの状況を見ながら保育者が判断していく必要がある。
【園全体】
☆豆まきをした後の活動をどのようにしたかったのか、考える必要があった。園庭には体を動かす遊びしか出ておらず体を休ませる場所がなかった。（例えば、テラスに制作や遊びのコーナーを設ける等。）
☆子どもが作ったものをどうやって遊びにつなげるか、遊びを広げるか考えることも課題である。

●各年齢での研究の成果と今後の課題

	成果	今後の課題
0・1歳児	・保育者と１対１でのかかわりの中で信頼関係を築くことができ、子ども達が表情や身振り、指差しで自分の思いを伝えるようになった。また、子ども達の思いを保育者が受け止め、代弁したり共感したりすることで安心感をもち友達や保育者とのやり取りを楽しんでいる。 ・保育者が仲立ちとなり、友達とのかかわりを楽しんでいるが、うまく伝えられない時もあり泣いたり怒ったり物を投げる等して、自分の思いを伝えようとする姿もあった。	・少しずつ自分の手段、方法で思いを表現できるようになってきたが、押す、叩く、物を取る等、うまく伝えられない時もある。簡単な言葉を一緒に言ったり、くり返し代弁して伝えたりして、友達とのかかわり方や思いの伝え方を引き続き丁寧に知らせていきたい。 ・保育者が仲立ちとなり、異年齢とかかわる場や遊びを取り入れ、一緒に遊ぶ楽しさを共有できるようにしていきたい。
2歳児	・子どもの興味に合わせて環境設定したことで、好きな遊びを楽しんだり友達とのかかわりも増え、友達と一緒に遊び、言葉のやり取りをしたりする姿がみられた。 ・保育者との信頼関係を築き安心して過ごす中で、友達にも目が向くようになってきた。友達が困っている姿に気付くと、すすんで助けてあげる等、思いやりの心が育ってきた。	・友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉にして伝えることがまだ難しい子もおり、手が出たり強い口調になったりする。そのため、仲立ちをしながら友達にも思いがあることに気付けるように援助していきたい。 ・戸外遊びでは幼児の遊びに興味を示し真似したり、かかわり合ったりして遊ぶ機会があったが、室内遊び等でもさらに異年齢交流できる場を作っていきたい。
3歳児	・ごっこ遊びや空き箱制作、ルールのある遊び等、子どもの興味、関心を遊びの中に取り入れてきたことで、友達と同じ場で同じ遊びをすることに楽しさを感じるようになってきた。 ・保育者や友達と一緒に遊ぶ中で、楽しさだけではなく、悔しい・嫌だ・負けたくない等といった様々な思いを言葉にして知らせるようにした。自分がどんな気持ちなのか知ることができ、また友達にも思いがあることを感じられ、相手の言葉にも耳を傾けられるようになってきた。	・好きな遊びに友達を誘ったり一緒に楽しんだりしているが、自分の思い通りに遊びを進めようとする姿があり言い争いや手が出ることもある。引き続き友達とのかかわり方を知らせ、状況に応じて必要な言葉を知らせていく必要がある。 ・遊びに夢中になることは良いのだが、気持ちの切り替えに時間が掛かったり、次の活動に移れなかったりする姿も目立った。絵カード等で生活の流れを知らせているが、身の回りのことも含め、自分から行動に移せるように援助していきたい。
4歳児	・お店屋さんごっこ等の共同的な遊びやルールのある遊び（鬼遊び、中当てドッジボール）を通して、自分の思いを友達に伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりする姿がみられるようになった。 ・友達と一緒に様々な遊びに取り組む中で、友達にはいろいろな思いや考えがあることを知り、葛藤する経験ができた。	・自分の気持ちの伝え方には個人差があるので、必要に応じて保育者が足りない言葉を補い、仲介役となって他児の気持ちを知る機会を作っていく必要性を感じた。 ・嫌なことがあったり友達と揉めたりすると、思いを伝える前に手が出てしまう場面も多くあった。思いの出し方や伝え方を丁寧に教えていくと共に、一人一人の発達に応じた保育者の声掛けや援助を探っていきたい。
5歳児	・友達の良い所や得意なことに気付き、認め合うようになった。また、友達にやり方を教えてあげたり応援したりして、友達の姿を気にして思いやる姿がみられるようになった。 ・クラスで一つの遊びを進める機会を取り入れていき、みんなで話し合う時間を確保したりそれぞれの考えを表現する場を作ったりしてきた。互いの気持ちを受け止め、話を聞き、折り合いをつける経験を重ねながら、共通の目的に向かってみんなで遊ぶ楽しさを感じることができた。	・遊びが盛り上がっても、その後くり返し遊んだり、工夫したりすることが少なかった。一つの遊びを遊び込んだり、もっと面白くしたりする働き掛け、援助が必要であった。 ・遊びの中では友達のことを思いやったり、気に掛けたりするが、生活の中では相手を傷つけるような言葉や態度をとってしまうことがあった。くり返し友達の思いや、やってはいけないことを伝えていく必要がある。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子ども一人一人の内面を理解することや子どもの個性を受け入れることを大切にし、それぞれの育ちの応じた関わりをしていくことを園全体で共通理解してきた。各クラスで作成したドキュメンテーションを活用することを園内研究の手立てとし、子どもの育ちを共有した。今年度もコロナ感染対策を行いながらの生活となったが、マスク着用やアルコール消毒、玩具等身の回りの清潔など、基本的な予防策をしっかり行いながら、子どもの活動にはなるべく制限をせず、できる限り子どもらしく伸び伸び過ごせるようにした。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	市内共通カリキュラムを活用し、園の子どもの実態を捉えながら幼児組は学級経営案、乳児組は月指導計画を作成した。毎週木曜日の週案会議にてクラスの様子や経験させたい活動等を共有し、週日案を作成して実践した。今年度は様々な感情体験を通して、自分の思いを表現したり、友だちの思いに気づいてほしいという保育者の願いを持ち、計画・実践・反省を重ね進めてきた。各年齢ごとに課題はまだ残るが、遊びこめる環境の中でたくさんの感情体験をし、人との関わりの楽しさやうれしさを知ることが出来たように思う。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	新型コロナウイルスの状況に応じて実施できなかった行事もあるが、実施方法を検討しながら、できることはなるべく実施するようにした。又、クラスボードやドキュメンテーションを通して、園での子ども姿や成長の様子を保護者と共有した。地域の子育て支援については、園庭開放は実施できなかったが、月２回、電話相談の日を設けた。近隣のＮＰＯ法人おひさま文庫より、読みたい絵本の貸し出しをしてもらったり、麦まき体験や農道に菜の花を植える活動に参加した。

●研究のまとめ

昨年度の反省や保育者の願いも踏まえ、今年度は様々な感情や思いの伝え方に視点を置いてみることにした。そこで、「気付き・考え・表現できる子～様々な感情体験を通して～」というサブテーマに沿って、各年齢で遊びを展開してきた。園内研究では、ポートフォリオを取り入れることで各クラスの遊びの様子を共有するだけでなく、遊びの中から子ども達がどんな感情体験をすることができたか、保育者の援助や環境構成はどうだったか等、グループに分かれて意見交換をし、保育の振り返りから課題を見つけてきた。

どの年齢も、保育者や友達と意図的にかかわれる環境（ごっこ遊び、ルールのある遊び等）を設定してきたことで、少しずつ自分の思いを伝えたり友達の言葉に耳を傾けたりする姿が増え、遊びの中で様々な感情に触れることができたのではないかと思う。一方で、「入れて」「貸して」「ありがとう」「～してほしい」等、状況に応じた具体的な言葉や伝え方をくり返し知らせてきたが、言葉が足らず友達と言い争いになったり、思いがうまく伝わらず手が出たりする姿もみられた。気持ちの伝え方には個人差も大きいので、一人一人の表情や言動をよく見ながらタイミングよくかかわることが大切であると感じた。引き続き、自分の思いを言葉にして伝える経験を積み重ねていけるように見守ったり、橋渡しをしたりしていきたい。

また、異年齢交流ができるよう遊びの場を設定してきたことで、お店屋さんごっこや戸外遊びを通してかかわりを持つことができた。もっと幼児組と乳児組のやり取りを増やしたり、遊びの場を工夫したりすることで、かかわりも広がっていくと思うので、積極的に異年齢交流を図っていきたいと思う。

巡回指導では、保育の振り返りを通して年齢に合わせた援助の仕方や子どもとのかかわり方、環境設定について指導を受けた。２回目の巡回指導は節分の日だったので、行事への導入の仕方や行事に参加した後の遊びの展開について指導を受け、改めて考える必要があり園全体での課題となった。園庭での遊びの設定をどのようにするか、職員間で話し合いをしていき反省点を改善していきたい。

園内研究を通して様々な意見を共有し、新たな発見、学びへとつながることができた。今後も職員間で話し合う機会を持ちながら、保育の質の向上へつなげていきたい。